

平成26年6月3日 高度情報通信
ネットワーク社会推進戦略本部決定

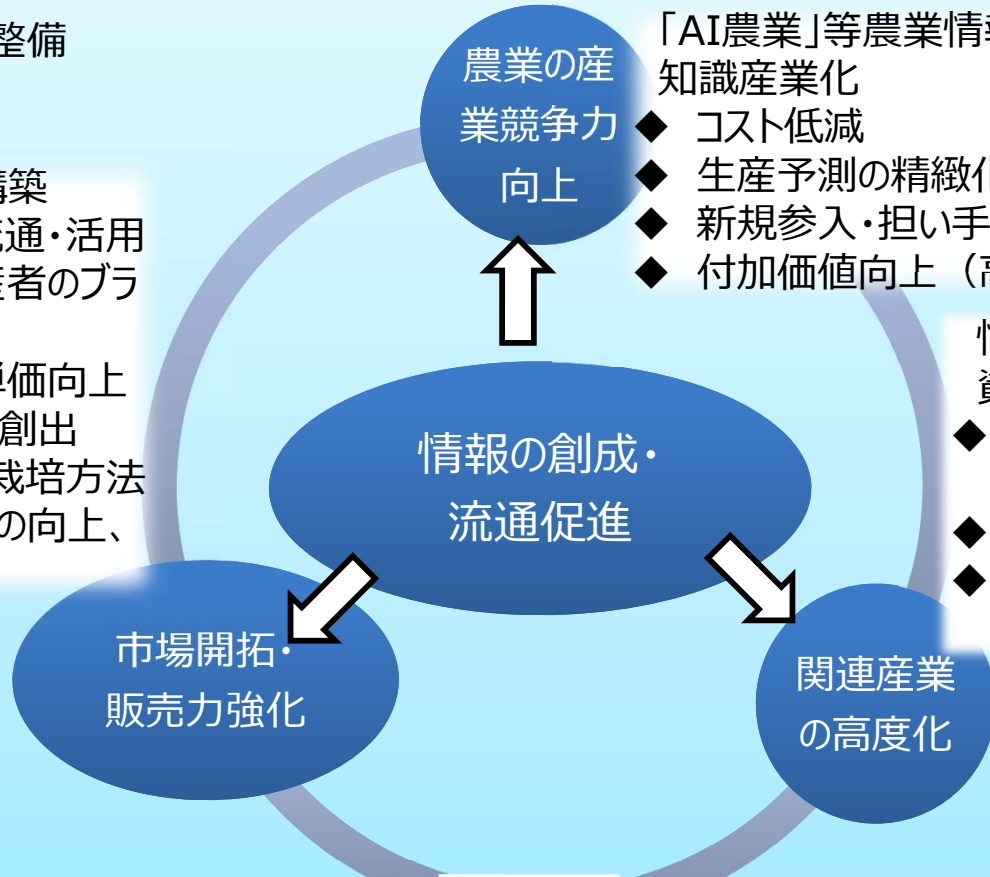
農業情報の多面的な利活用により、農業の産業競争力強化を加速化

1st Stage (～2013) : 「情報収集」 → 2nd Stage (2014～) : 「情報の創成・流通促進」

- 農業情報の相互運用性・可搬性の確保に資する標準化や情報の取扱いに関する本戦略に基づくガイドライン等の策定
- 農地情報の整備と活用
- 本戦略推進のための体制整備

情報流通によるバリューチェーンの構築

- ◆ 生産者の出荷実績等の情報流通・活用
 - ・ 出荷実績に基づく、優れた生産者のブランド化
 - ・ 評価に基づく販売先の拡大・単価向上
 - ・ 評価を利活用した新ビジネスの創出
- ◆ 付加価値情報(特別な品質や栽培方法等)の流通による農産物の評価の向上、海外市場拡大



「AI農業」等農業情報を活用したビジネスモデル構築・知識産業化

- ◆ コスト低減
- ◆ 生産予測の精緻化・安定出荷の実現
- ◆ 新規参入・担い手農家の早期育成
- ◆ 付加価値向上 (高品質化/収穫量up等)



情報・ノウハウ等を活用した複合的な資材・サービスの展開

- ◆ 流通した情報・ノウハウの利活用による農業機械や施設のソリューション展開
- ◆ モノ創りノウハウの利活用
- ◆ 多様な資材・サービスの新たな連携・組合せ



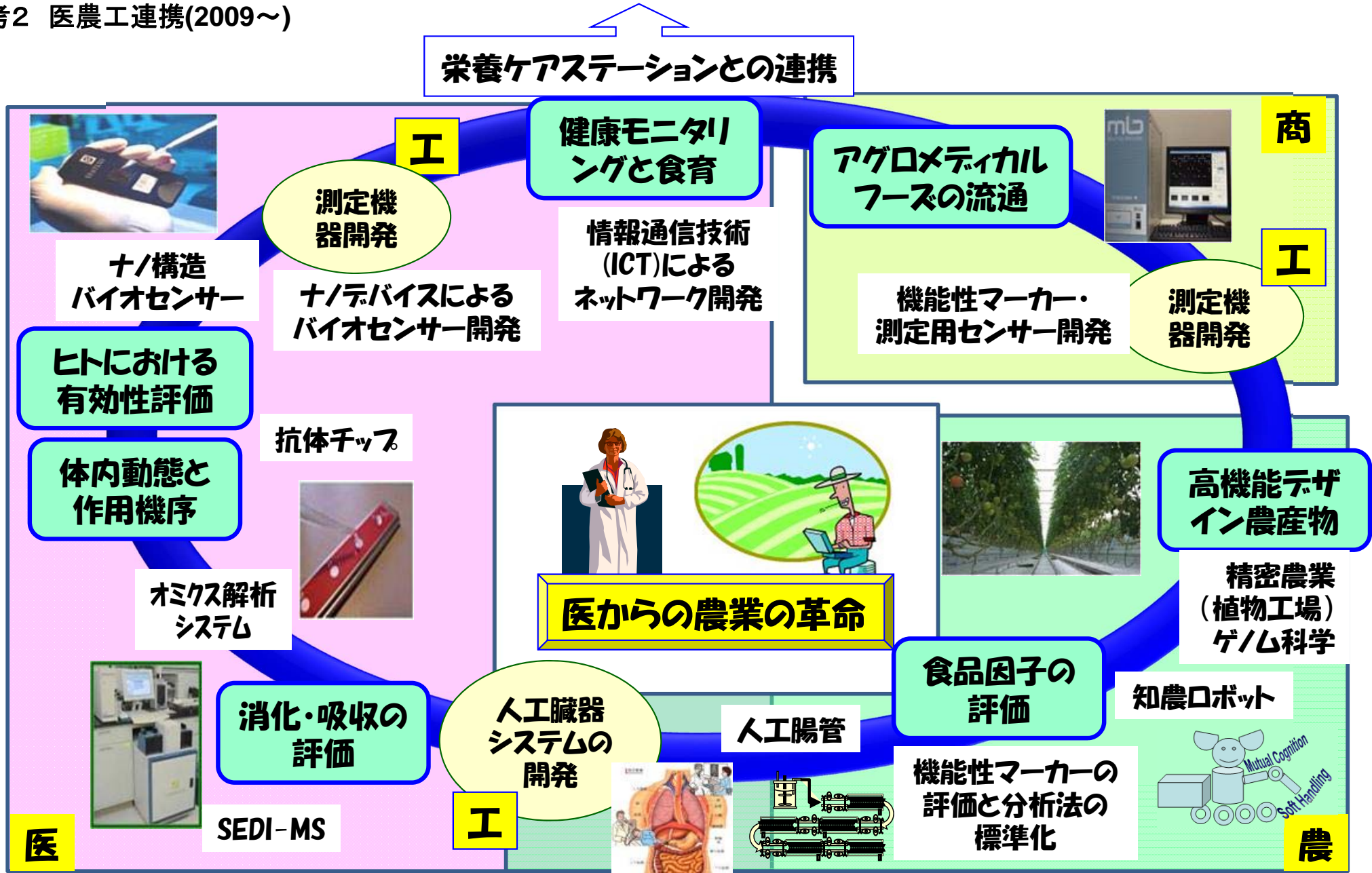
情報・ノウハウの価値に関する普及啓発

情報・ノウハウの海外流出防止のための留意事項に関する普及啓発

農林水産物輸出額 1兆円の達成

健康の維持・向上をめざす個人適性の食膳レシピー:アグロメディカルダイアティクス(AMD)

参考2 医農工連携(2009~)

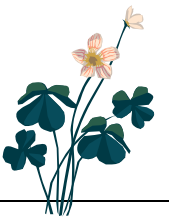


アグロメディカルフーズ(AMF)の開発構想

@Shibu 地域資源戦略 20141218

研究成果整理の例(2012.11.29)

参考2-2 医農工連携(2009~)



機能性成分研究の現状(農産物ごとに整理)

農産物	機能性の確認				分析法の確立		農産物の供給		
	ヒト(疫学調査)	ヒト(介入試験)	動物	細胞	農産物・食品	生体試料	育種	栽培	加工・調理
タマネギ	△メタボ	△脂肪肝 △メタボ △認知症 ○ドライマウス ○ドライアイ	○メタボ ○認知症 ○黄斑変 ○ドライアイ	○メタボ ○認知症 ○ドライアイ	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン	○ケルセチン
大豆	○メタボ	△脂肪肝 ○骨粗鬆 ○更年期 ○ドライマウス ○ドライアイ ○黄斑変	○メタボ ○骨粗鬆 ○黄斑変 ○ドライマウス ○ドライアイ	○骨粗鬆 ○ドライマウス	○イソフラボン		○イソフラボン	○イソフラボン	
茶		○免疫賦活 ○抗アレルギー	○免疫賦活 ○抗アレルギー	○免疫賦活 ○抗アレルギー	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン	○ストリクチニン・ エピガロカテキン
リンゴ	○メタボ ○糖尿病 ○動脈硬化症 ○骨粗鬆	△メタボ	○糖尿病 ○動脈硬化症 ○認知症	○糖尿病 ○動脈硬化症 ○認知症	○プロシアニジン	○プロシアニジン	○プロシアニジン	○プロシアニジン	○プロシアニジン
ミカン・ミカン果汁	○メタボ ○骨粗鬆 ○糖尿病 ○肝疾患 ○動脈硬化症	○脂肪肝	○メタボ ○骨粗鬆 ○脂肪肝 ○糖尿病 ○動脈硬化症	○脂肪肝			○β-クリプトキサンチン	○β-クリプトキサンチン	○β-クリプトキサンチン
ハウレンソウ	○黄斑変	△黄斑変	○ドライアイ △黄斑変		○ルテイン				
トマト・ナス			△メタボ △脂肪肝 △糖尿病	○メタボ ○糖尿病			○オスモチン	○オスモチン	

AMIの今後の展開

普及モデル AMD(Agro-medical Dietics)

- 「管理栄養士 + 調理師 + 食堂」の連携
- ・食事を豊にする30種以上のAMFの常時供給
 - ・健康維持のために設計された調理・食事法
 - ・食事法と健康相談の「場」創出

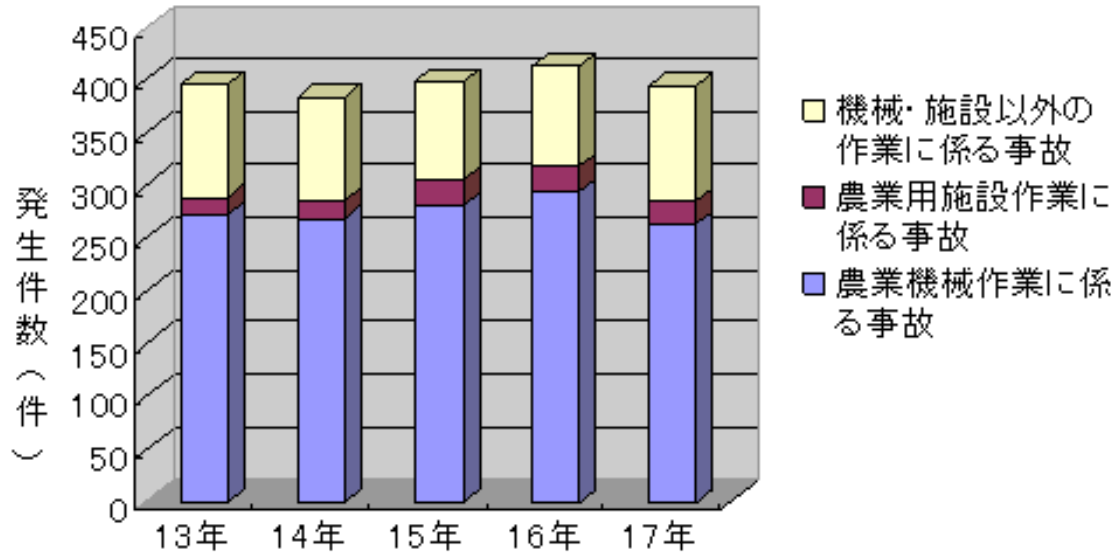
人材養成のカリキュラム

- ・管理栄養士のためのAMF / AMDのテキスト
- ・生産者のためのAMF / AMDのテキスト
- ・調理師のためのAMF / AMDのテキスト

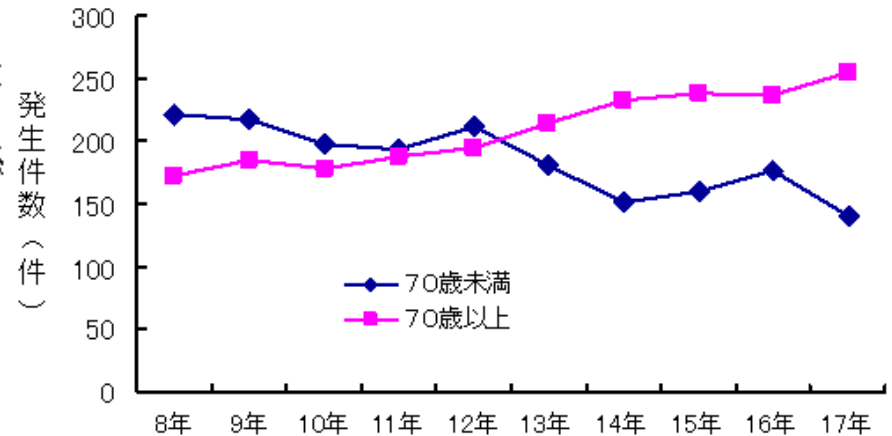
基礎研究強化 AMFLパートナー

- ・100種以上のAMF創造の基礎研究強化
- ・「育種・栽培法」+「分析法」+「医学的証拠」の一体研究
- ・AMF生産者の育成

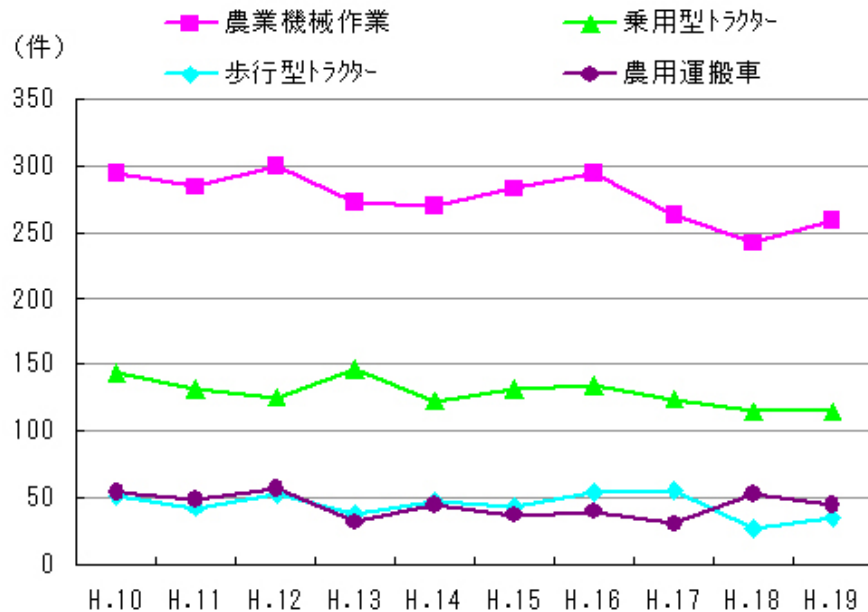
ニース対応型開発研究への投資



第1図 農作業中の死亡事故発生状況(全国)



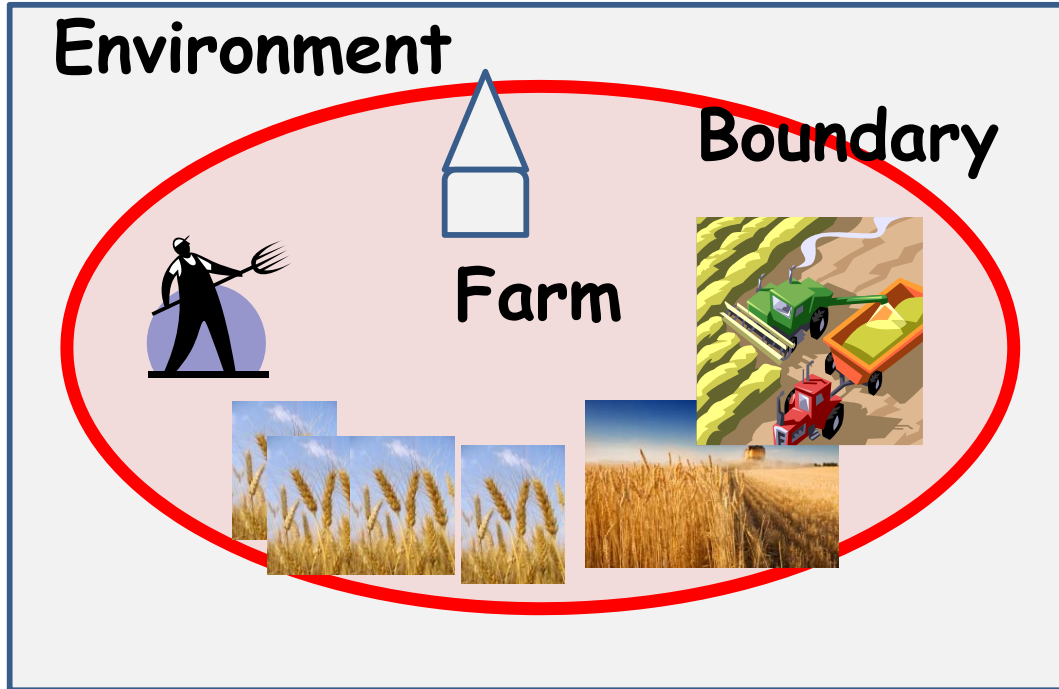
第2図 70歳未満と70歳以上の死亡事故発生件数(全国)



農業就業人口 290万人 事故死 400人
 65歳以上 61% (H19)
 10万人あたり 事故死 400/29 > 13.8人

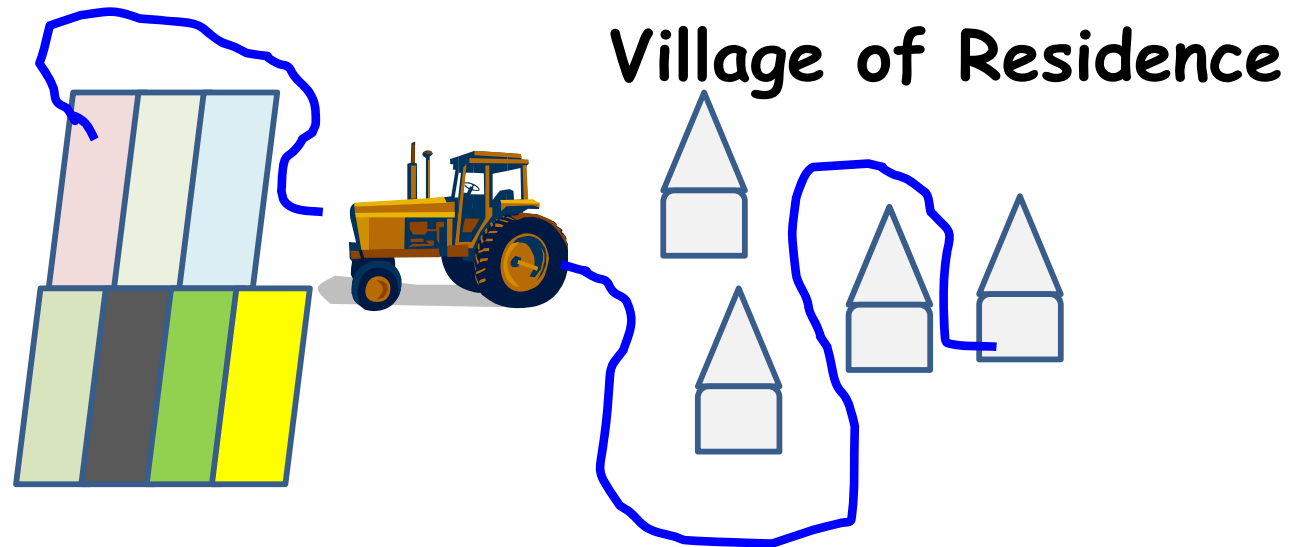
産業界平均 4人(H11)
 建設業 18人(H11) → 減少傾向
 農業 10人(H11)

欧米型・酪農型の農場



農場のかたちが異なる
リスク管理の対象が異なる

小規模集落農業
の農場かたち



食料・農業の安全確保の方策

食材・食品流通システムの安全

- ・農場リスク管理の国際標準(GLOBAL G.A.P.)の普及
- ・食品加工, 流通, 小売のリスク管理(HACCP)の普及
- ・「食品流通」を対象にした保険システム
- ・トレーサビリティ(危害食品迅速排除の仕組み)

農作業システムの安全

- ・技術パッケージ(システム)の運用安全性
- ・個別技術(ロボットなど)の安全性
- ・技術運転資格の厳格化⇒人材養成カリキュラム

日本型農場概念⇒地域システムの安全性

- ・住宅と(公的)道路を「農業生産の場」として位置づける
- ・「機械システム」+「環境(道路など)」+「人間」による「事故発現場」の解消法
- ・地域生活の場の安全性

地域(産業・生活)システムの安全